

アクロス福岡 ACROS Fukuoka

2018年12月8日(土)		Sunday, December 9, 2018
4F「国際会議場」	7F「大会議室」	4F International Conference Hall
8:00		8:00~9:00 Morning Seminar Rare diseases in gastroenterology~Periodic fever syndrome and abdominal pain in autoinflammatory disease~ Chair: Hiroshi Nakase Lecturer 1: Hirotake Sakuraba / Lecturer 2: Hiroaki Ida Supported by Novartis Pharma K.K.
9:00		9:00~11:30
10:00		Symposium 2 Innate and Epithelial barrier Chair: Brian Kelsall, Kiyoshi Takeda Co-organized with US-Japan Immunology
11:00	11:00~11:18 一般演題 1 消化管① 座長：樋口 和秀 11:18~11:36 一般演題 2 消化管② 座長：飯島 英樹 11:36~11:48 一般演題 3 消化管③ 座長：大島 茂	
12:00	12:00~13:00 ランチョンセミナー 1 JAK 阻害剤ゼルヤンツー潰瘍性大腸炎に対する新しい治療選択肢 座長：仲瀬 裕志 / 演者：松岡 克善 共催：ファイザー株式会社	11:45~12:45 Luncheon Seminar 2 Understanding current treatment of ulcerative colitis based on mode of action Chair: Mamoru Watanabe / Lecturer: Hiroshi Nakase Supported by Janssen Pharmaceutical K.K./ Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation
13:00	13:10~15:10	13:00~15:30
14:00	シンポジウム 1 免疫関連の肝疾患をめぐって 座長：竹原 徹郎、太平 弘正	Symposium 3 Novel basic and clinical findings in IBD research Chair: Takanori Kanai, Michael McGuckin
15:00	15:10~15:34 一般演題 4 肝・胆・膵 座長：井戸 章雄	
16:00	15:40~16:40 教育講演 腸管粘膜関連微生物叢と潰瘍性大腸炎： 5-アミノサリチル酸の抗炎症作用の新規メカニズムを探る 座長：溝口 充志 / 演者：内藤 裕二 共催：持田製薬株式会社	15:45~16:45 Educational Lecture Novel insights into the disease-causing properties of the gastric mucosal pathogen <i>Helicobacter pylori</i> Chair: Toshifumi Hibi / Lecturer: Thomas F. Meyer Supported by Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd.
17:00	16:40~16:58 一般演題 5 消化管④ 座長：猿田 雅之 16:58~17:16 一般演題 6 消化管⑤ 座長：穂苅 量太 17:16~17:34 一般演題 7 消化管⑥ 座長：岡崎 和一 17:34~17:55 評議員会・総会	16:45~17:00 Best presentation Award
18:00	18:00~19:00 イブニングセミナー 免疫学の観点から抗 TNF 製剤の位置づけを考える 座長：久松 理一 / 演者：安藤 朗 共催：アッヴィ合同会社 / EA ファーマ株式会社	
19:00		
20:00		19:10~21:00 懇親会
21:00		

プログラム

【第1日目】 12月8日(土)(使用言語：日本語)

開会の辞 10:55～11:00 会長：清野 宏

(東京大学医科学研究所 千葉大学大学院医学研究院 カリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD))

一般演題 1 11:00～11:18

会場：アクロス福岡 4F「国際会議場」

座長：樋口 和秀 (大阪医科大学第二内科)

「消化管①」

OS1-1 炎症性腸疾患におけるプロスタシン (Prss8) の機能解析

○杉谷 義彦 (すぎたに よしひこ)、西田 淳史¹⁾、森田 康大¹⁾、今井 隆行¹⁾、杉谷 義彦¹⁾、西野 恭平¹⁾、今枝 広丞¹⁾、稲富 理¹⁾、馬場 重樹¹⁾、杉本 光繁²⁾、安藤 朗

1)滋賀医科大学 消化器内科、2)滋賀医科大学 光学診療部

OS1-2 腸管粘膜傷害におけるプロスタグランジン輸送蛋白 (Slco2a1) の役割の検討

○中田 理恵子 (なかた りえこ)¹⁾、細見 周平¹⁾、奥田 博朗¹⁾、古瀬 味澄¹⁾、杉田 奈央子¹⁾、西田 裕¹⁾、鑄谷 成弘¹⁾、鎌田 紀子¹⁾、山上 博一¹⁾、谷川 徹也¹⁾、渡辺 俊雄¹⁾、中村 吉伸²⁾、中西 猛夫²⁾、藤原 靖弘¹⁾

1)大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学、2)金沢大学医薬保健研究域 薬学系

OS1-3 小麦タンパク：グリアジンの非ステロイド系抗炎症薬起因性小腸粘膜傷害増悪作用

○谷川 徹也 (たにがわ てつや)^{1),2)}、島田 直¹⁾、灘谷 祐二¹⁾、大谷 恒史¹⁾、細見 周平¹⁾、田中 史生¹⁾、永見 康明¹⁾、鎌田 紀子¹⁾、平良 高一¹⁾、山上 博一¹⁾、渡辺 俊雄^{1),2)}、藤原 靖弘¹⁾

1)大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学
2)大阪市立大学大学院医学研究科 国際消化管研究センター

一般演題 2 11:18～11:36

会場：アクロス福岡 4F「国際会議場」

座長：飯島 英樹 (大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学)

「消化管②」

OS2-1 レチノイン酸によるマクロファージ・パイロトーシス制御機構

○平賀 寛人 (ひらが ひろと)¹⁾、石黒 陽²⁾、櫻庭 裕丈¹⁾、村井 康久¹⁾、前田 高人¹⁾、田中 奈保子¹⁾、蓮井 桂介¹⁾、吉田 淑子³⁾、福田 眞作¹⁾、中根 明夫⁴⁾

1)弘前大学大学院医学研究科 消化器血液内科学、2)独立行政法人国立病院機構弘前病院 臨床研究部門
3)株式会社シバタ医理科、4)弘前大学大学院医学研究科 感染生体防御学

OS2-2 腸炎モデルマウスにおける RNA 結合蛋白 hnRNP A1 による腸管粘膜修復作用

○安藤 勝祥 (あんどう かつよし)¹⁾、藤谷 幹浩^{2),3)}、小西 弘晃³⁾、上野 伸展¹⁾、奥村 利勝²⁾

1)旭川医科大学 地域医療支援及び専門医育成推進講座
2)旭川医科大学 内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学分野、3)旭川医科大学 消化器先端医学講座

OS2-3 迷走神経を介した腸管免疫制御機構の検討

○三上 洋平 (みかみ ようへい)¹⁾、寺谷 俊昭¹⁾、中本 伸宏¹⁾、筋野 智久¹⁾、鈴木 貴博^{1),2)}、楮 柏松¹⁾、宮本 健太郎^{1),2)}、水野 慎大¹⁾、長沼 誠¹⁾、金井 隆典¹⁾

1)慶應義塾大学医学部 内科学教室 (消化器)、2)ミヤリサン製薬株式会社

座長：大島 茂（東京医科歯科大学医学部附属病院消化器内科）

「消化管③」

OS3-1 腸上皮細胞のオートファジー欠損は酸化ストレス応答を介して腸炎を増悪させる

- 柿本 一城（かきもと かずき）窪田 美紀¹⁾、光林 永子¹⁾、中沢 啓¹⁾、平田 有基¹⁾、
坂中 太輔¹⁾、川上 研¹⁾、竹内 利寿¹⁾、中川 孝俊²⁾、朝日 通雄²⁾、樋口 和秀¹⁾
大阪医科大学 1)第二内科、2)薬理学教室

OS3-2 オートファジーは小胞体ストレス誘導性アポトーシスの抑制を介して DSS 誘発慢性腸炎を改善する

- 西野 恭平（にしの きょうへい）^{1),2)}、西田 淳史¹⁾、森田 康大¹⁾、米倉 伸彦¹⁾、今井 隆行¹⁾、
杉谷 義彦¹⁾、酒井 滋企¹⁾、今枝 広丞¹⁾、稲富 理¹⁾、馬場 重樹³⁾、杉本 光繁⁴⁾、
安藤 朗¹⁾
1)滋賀医科大学 消化器内科、2)守山市民病院 消化器内科、3)滋賀医科大学 栄養治療部、
4)滋賀医科大学 光学医療診療部

座長：仲瀬 裕志（札幌医科大学付属病院 消化器内科）

「JAK 阻害剤ゼルヤンツ―潰瘍性大腸炎に対する新しい治療選択肢」

- 松岡 克善（まつおか かつよし）
東邦大学医療センター佐倉病院 内科学講座

共催：ファイザー株式会社

座長：竹原 徹郎（大阪大学大学院医学系研究科 消化器内科学）
大平 弘正（福島県立医科大学消化器内科学）

「免疫関連の肝疾患をめぐって」

S1-1 核酸アナログ内服中の B 型慢性肝炎患者における経鼻治療ワクチン（NASVAC）の有用性の検討

- 吉田 理（よしだ おさむ）¹⁾、Akbar SMF²⁾、今井 祐輔¹⁾、真田 崇弘³⁾、小原 道法³⁾、
日浅 陽一¹⁾
1)愛媛大学大学院 消化器・内分泌・代謝内科学
2)愛媛大学 プロテオサイエンスセンター 病理学部門
3)東京都医学総合研究所 ゲノム医科学研究分野・感染制御プロジェクト

S1-2 自己免疫性胆管病変形成の性差に関する実験的解析

- 内山 明（うちやま あきら）、染谷 秀忍、福原 京子、今 一義、山科 俊平、池嶋 健一
順天堂大学医学部 消化器内科

S1-3 胆管細胞・免疫細胞から明らかにする原発性胆汁性胆管炎の病態

- 下田 慎治（しもだ しんじ）¹⁾、原田 憲一²⁾、中村 稔³⁾
1)九州大学 病態修復内科学講座、2)金沢大学 人体病理学講座、3)長崎医療センター

S1-4 日本人原発性胆汁性胆管炎における疾患感受性遺伝子 PRKCB の解析

- 相葉 佳洋（あいば よしひろ）¹⁾、伊東 正博^{1),2)}、植野 和子³⁾、川嶋 実苗³⁾、西田 奈央³⁾、
人見 祐基³⁾、小森 敦正^{1),2)}、橋元 悟¹⁾、長岡 進矢¹⁾、阿比留 正剛¹⁾、八橋 弘^{1),2)}、
長崎 正朗⁴⁾、徳永 勝士³⁾、中村 稔^{1),2)}
1)長崎医療センター 臨床研究センター、2)長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 肝臓病学講座
3)東京大学大学院医学系研究科 人類遺伝学教室、4)東北大学 東北メディカル・メガバンク機構

S1-5 原発性胆汁性胆管炎の病態と補体パターン認識分子の関連

○林 学 (はやし まなぶ)、藤田 将史、岡井 研、阿部 和道、高橋 敦史、大平 弘正
福島県立医科大学 消化器内科学講座

S1-6 原発性胆汁性胆管炎患者における血清 AIM 値は肥満やインスリン抵抗性ではなく病期と相関する

○樋本 尚志 (ひもと たかし)¹⁾、藤田 浩二²⁾、正木 勉²⁾
1)香川県立保健医療大学 臨床検査学科、2)香川大学医学部 消化器・神経内科

一般演題 4 15:10～15:34

会場：アクロス福岡 4F「国際会議場」

座長：井戸 章雄 (鹿児島大学大学院消化器病学)

「肝胆膵」

OS4-1 1型自己免疫性膵炎を含むIgG4関連疾患における血清Interleukin-6値とその臨床像の検討

○内田 一茂 (うちだ かずしげ)、津久田 諭、池浦 司、柳川 雅人、堀 雄一、中丸 洸、
伊藤 嵩志、田中 敏宏、富山 尚、安藤 祐悟、山口 隆志、福井 寿朗、西尾 彰功、
岡崎 和一
関西医科大学 内科学第三講座 (消化器肝臓内科)

OS4-2 肝細胞癌根治的治療後の再発関連因子としての酸化ストレスバランスの検討

○室 泰子 (むろ たいこ)¹⁾、高木 章乃夫²⁾、中村 進一郎³⁾、大西 秀樹²⁾、大山 淳史²⁾、
足立 卓哉²⁾、和田 望²⁾、安中 哲也²⁾、安中 幸²⁾、池田 房雄²⁾、白羽 英則²⁾、
岡田 裕之²⁾
1)岡山大学病院 消化器内科、2)岡山大学病院 消化器内科、3)姫路赤十字病院

OS4-3 インターロイキン-19の肝線維化における役割

○牛飼 裕美 (うしかい ゆみ)、東 泰孝
大阪府立大学大学院 獣医・薬理

OS4-4 膵炎発症における自然免疫と獲得免疫の関与—動物実験モデルの解析

○西尾 彰功 (にしお あきよし)、榊田 昌隆、武尾 真宏、青井 一憲、岡崎 敬、中山 新士、
山科 雅央、福井 寿朗、内田 一茂、岡崎 和一
関西医科大学 内科学第三講座 (消化器肝臓内科)

教育講演 15:40～16:40

会場：アクロス福岡 4F「国際会議場」

座長：溝口 充志 (久留米大学医学部免疫学講座)

「腸管粘膜関連微生物叢と潰瘍性大腸炎：

5 - アミノサリチル酸の抗炎症作用の新規メカニズムを探る」

○内藤 裕二 (ないとう ゆうじ)
京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学

共催：持田製薬株式会社

「消化管④」

OS5-1 シクロスポリンによる MCT1 発現調節を介した酪酸吸収促進効果

○太田 真二（おた しんじ）¹⁾、櫻庭 裕丈¹⁾、平賀 寛人^{1),2)}、田中 奈保子¹⁾、渡邊 里奈¹⁾、明本 由衣¹⁾、佐竹 美和¹⁾、吉田 淑子³⁾、石黒 陽⁴⁾、福田 眞作¹⁾

1) 弘前大学大学院医学研究科 消化器血液内科学、2) 弘前大学大学院医学研究科 大館北秋田地域医療推進学、3) 株式会社シバタ医理科、4) 独立行政法人国立病院機構弘前病院 消化器血液内科

OS5-2 潰瘍性大腸炎に対する青黛による新規治療メカニズムの解明

○吉松 裕介（よしまつ ゆうすけ）、三上 洋平、種本 俊、野村 絵奈、大野 恵子、寺谷 俊昭、杉本 真也、南木 康作、水野 慎大、筋野 智久、長沼 誠、金井 隆典

慶應義塾大学医学部 内科学（消化器）

OS5-3 免疫関連有害事象（irAE）による下痢・大腸炎の経験から

○津軽 開（つがる かい）¹⁾、平田 賢郎¹⁾、下嵯 啓太郎¹⁾、戸ヶ崎 和博¹⁾、須河 恭敬¹⁾、林 秀幸²⁾、浜本 康夫²⁾、高石 官均²⁾、金井 隆典¹⁾

1) 慶應義塾大学病院 消化器内科 2) 同 腫瘍センター

「消化管⑤」

OS6-1 IBD 患者の Lipidomics 解析

○岩谷 修子（いわたに しゅうこ）¹⁾、飯島 英樹¹⁾、天野 孝広¹⁾、大竹 由利子¹⁾、谷 瑞季¹⁾、良原 丈夫¹⁾、辻井 芳樹¹⁾、井上 隆弘¹⁾、林 義人¹⁾、新崎 信一郎¹⁾、林 昭夫²⁾、藤田 節子²⁾、竹原 徹郎¹⁾

1) 大阪大学大学院医学系研究科 消化器内科学、2) 小野薬品工業 創薬基盤研究所

OS6-2 NAFLD における絶食時腸管脂質代謝の変化と病態とのかかわりに関する検討

○花山 雅一（はなやま まさかず）¹⁾、山本 安則²⁾、北畑 翔吾¹⁾、丹下 和洋¹⁾、川村 智恵¹⁾、八木 専³⁾、富田 英臣²⁾、竹下 英次³⁾、池田 宜央²⁾、日浅 陽一¹⁾

1) 愛媛大学大学院 消化器・内分泌・代謝内科学、2) 愛媛大学医学部附属病院 光学医療診療部
3) 愛媛大学医学部附属病院 地域消化器免疫医療学

OS6-3 独自ポリユビキチン鎖可視化技術を用いた新規腸炎調節分子の同定

○大島 茂（おおしま しげる）、仁部 洋一、松田 浩紀、田村 皓子、青沼 映美、大坪 加奈、渡辺 守
東京医科歯科大学医学部附属病院 消化器内科

「消化管⑥」

OS7-1 Interleukin-36 γ による腸管バリア維持機構に関する検討

○春里 暁人（はるさと あきひと）^{1),3)}、内藤 裕二²⁾、高木 智久²⁾、内山 和彦²⁾、水島 かつら²⁾、Vu Ngo³⁾、Oscar-Medina Contreras³⁾、岡 浩平¹⁾、石破 博¹⁾、岡山 哲也¹⁾、福居 顕文¹⁾、堅田 和弘¹⁾、Tim Denning³⁾、伊藤 義人²⁾

1) 京都府立医科大学北部医療センター 消化器内科、2) 京都府立医科大学 消化器内科、3) Georgia State University

OS7-2 CD157/BST-1 の欠損により DSS 腸炎は軽症化する

○勝又 諒 (かつまた りょう)、矢作 綾野、井関 将典、塩谷 昭子、石原 克彦
川崎医科大学 消化管内科学、川崎医科大学 免疫学

OS7-3 IL-19 のオキサゾロン誘発性腸炎モデルにおける役割

○東 泰孝 (あずま やすたか)
大阪府立大学大学院 獣医・薬理

評議員会・総会 17:34 ~ 17:55

会場：アクロス福岡 4F 「国際会議場」

イブニングセミナー 18:10 ~ 19:10

会場：アクロス福岡 4F 「国際会議場」

座長：久松 理一 (杏林大学医学部第三内科)

「免疫学の観点から抗 TNF 製剤の位置づけを考える」

○安藤 朗 (あんどう あきら)
滋賀医科大学医学部 消化器内科

共催：アッヴィ合同会社 / EA ファーマ株式会社

懇親会 19:10 ~ 21:00

会場：アクロス福岡 7F 「大会議室」

【The 2nd day】 Sunday, December 9 (Language : English)
JSMI, SMI, JSI and US-Japan Immunology Joint Program

Morning Seminar 8:00 ~ 9:00

Venue : International Confedence Hall 4F, ACROSS Fukuoka

Chair : Hiroshi Nakase (Department of Gastroenterology and Hepatology,
Sapporo Medical University School of Medicine)

**“Rare diseases in gastroenterology ~Periodic fever syndrome and
abdominal pain in autoinflammatory disease~”**

**Case reports successfully treated with canakinumab, mimicking Behçet's s disease and a
retrospective analysis of 12 cases of Familial Mediterranean fever**

○Hirotake Sakuraba
Department of Gastroenterology and Hematology, Hirosaki University, Graduate School of Medicine

Diagnostic and therapeutic points for autoinflammatory syndrome

○Hiroaki Ida
Division of Respiriology, Neurology, and Rheumatology, Department of Medicine,
Kurume University School of Medicine

Supported by Novartis Pharma K.K.

Symposium 2 9 : 00 ~ 11 : 30

Venue : International Confedence Hall 4F, ACROSS Fukuoka

Chair : Brian Kelsall (Laboratory of Molecular Immunology, NIAID),
Kiyoshi Takeda (Department of Microbiology and Immunology,
Immunology Frontier Research Center, Osaka University)

“Innate and Epithelial barrier”

S2-1 Intestinal Epithelial Stem Cell Organoid and IBD

○Mamoru Watanabe
Department of Gastroenterology and Hepatology, Tokyo Medical and Dental University

S2-2 Single-cell mRNA analysis of colon phagocyte heterogeneity identifies two major macrophage developmental pathways

Byunghyun Kang¹, Luigi J. Alvarado², Michael Lehmann³, Peng Li⁴, Hyeseon Cho¹,
Jianping He¹, Andre Larochelle², ○Brian Kelsall¹
1) Laboratory of Molecular Immunology, NIAID, 2) Hematology Branch, NHLBI,
3) Laboratory of Cellular and Molecular Regulation, NIMH,
4) Laboratory of Molecular Immunology, NHLBI, National Institutes of Health, Bethesda MD, USA.

S2-3 Purinergic Regulation of Mast Cells for Symbiosis and Elimination

○Yosuke Kurashima
Innovative Medicine, Graduate School of Medicine and School of Medicine, Chiba University

S2-4

○Bana Jabri
University of Chicago, USA

S2-5 Identification of bacterial metabolites that regulate immune responses in the intestine

○Kiyoshi Takeda
Department of Microbiology and Immunology, Immunology Frontier Research Center, Osaka University

Co-organized with US-Japan Immunology

Luncheon Seminar 2 11 : 45 ~ 12 : 45

Venue : International Confedence Hall 4F, ACROSS Fukuoka

Chair : Mamoru Watanabe (Department of Gastroenterology and Hepatology,
Tokyo Medical and Dental University)

“Understanding current treatment of ulcerative colitis based on mode of action”

○Hiroshi Nakase
Department of Gastroenterology and Hepatology, Sapporo Medical University School of Medicine

Supported by Janssen Pharmaceutical K.K. / Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation

Symposium 3 13 : 00 ~ 15 : 30

Venue : International Confedence Hall 4F, ACROSS Fukuoka

Chair : Takanori Kanai (Division of Gastroenterology and Hepatology,
Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine)
Michael McGuckin (Faculty of Medicine, Dentistry and Health Sciences, University of Melbourne)

“Novel basic and clinical findings in IBD research”

S3-1 Modulation of Innate Immune Responses by IBD-associated Genes

○Clara Abraham
Department of Medicine, Yale University

S3-2 Mucin *O*-glycans facilitate symbiotic metabolism to maintain gut immune homeostasis

○Koji Hase
Faculty of Pharmacy, Keio University

S3-3 MUC13 promotes colitis-associated cancer and drives a pattern of inflammation that suppresses anti-tumour immunity

○Michael McGuckin
Faculty of Medicine, Dentistry and Health Sciences, University of Melbourne

S3-4 Intestinal IgA as a modulator of gut microbiota

○Reiko Shinkura
Laboratory of Immunology and Infection Control, Institute of Quantitative Biosciences,
The University of Tokyo

S3-5 Gut pathobionts in primary sclerosing cholangitis

○Takanori Kanai, Nobuhiro Nakamoto
Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine,
Keio University School of Medicine

Educational Lecture 15 : 45 ~ 16 : 45 Venue : International Confedence Hall 4F, ACROSS Fukuoka

Chair : Toshifumi Hibi (Center for Advanced IBD Reserch and Treatment,
Kitasato Institute Hospital, Kitasato University)

“Novel insights into the disease-causing properties of the gastric mucosal
pathogen *Helicobacter pylori*”

○Thomas F. Meyer
Max Planck Institute for Infection Biology, Department of Molecular Biology, Berlin

Supported by Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd.

Best presentation award 16 : 45 ~ 17 : 00 Venue : International Confedence Hall 4F, ACROSS Fukuoka

In December 10 (Mon.), the annual meeting of Japanese Society for Immunology (JSI) will hold two mucosal immunology sessions in Fukuoka International Congress Center. You will be able to attend these joint symposia as well.

December 10 (Mon): JSMI, SMI and JSI

Joint Symposium1 : Host-microbe interaction in physiology and pathology

Joint Symposium2 : Cross talk between immune and nervous system at surface barriers

【The 3rd day】 Monday, December 10

Joint Symposium 1 9 : 30 ~ 12 : 00 Room A : Main Hall, Fukuoka International Congress Center

Chairpersons : Hiroshi Ohno (RIKEN),
Kiyoshi Takeda (Osaka University)

JS1 Host-microbe interaction in physiology and pathology:

The Japanese Society for Mucosal Immunology (JSMI) and The Society for Mucosal Immunology (SMI) Co-organized Session

JS1-1 Manipulation of the microbiota for the treatment of cancer and IBD

○Kenya Honda

Department of Microbiology and Immunology, Keio University School of Medicine, Tokyo, Japan /
Laboratory for Gut Homeostasis, RIKEN Center for Integrative Medical Sciences (IMS), Yokohama, Japan

JS1-2 ILC2s regulate mucosal homeostasis in the stomach

○Naoko Satoh-Takayama

Laboratory for Intestinal Ecosystem, Center for Integrative Medical Science, RIKEN, Yokohama, Japan

JS1-3 Developmental effects of impaired perinatal microbial colonization

○Maria Gloria Dominguez-Bello

Biochemistry and Microbiology, Rutgers University, New Brunswick, USA

JS1-4 Perturbing the early life microbiota affects immunologic development and disease

○Martin J Blaser

Department of Translational Medicine , New York University Langone Medical Center, New York , United States

JS1-5 Prevention of autoimmunity by regulatory T cells induced through interplay between helminth and microbiota

○Hajime Hisaeda

Department of Parasitology, National Institute of Infectious Diseases, Tokyo, Japan

Chairpersons : Mayuki Amagai (Keio University)

Hiroshi Kiyono (The University of Tokyo)

JS2 Cross talk between immune and nervous system at surface barriers:

The Japanese Society for Mucosal Immunology (JSMI) and The Society for Mucosal Immunology (SMI) + US-Japan Immunology Program Co-organized Session

JS2-1 The Neuro-Immune Axis in Chronic Itch

○Brian Kim

Dermatology, Department of Medicine, Washington University School of Medicine, St. Louis, USA

JS2-2 Imaging of the epidermal nerve dynamics and activity in normal and pruritic dermatitis conditions

○Takaharu Okada

RIKEN Center for Integrative Medical Sciences, Yokohama, Japan

JS2-3 Nociceptors are Sufficient to Initiate Cutaneous Type-17 Inflammation

○Daniel Kaplan

Department of Dermatology and Immunology, University of Pittsburgh, Pittsburgh, United States

JS2-4 Interaction between immune cells and peripheral nerves in the skin: neuropeptide PACAP promotes cutaneous dendritic cell functions in contact hypersensitivity

○Kenji Kabashima

Department of Dermatology, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan

JS2-5 Semaphorin 6D reverse signaling controls anti-inflammatory polarization of intestinal macrophages by lipid metabolism

○Atsushi Kumanogoh

Department of Respiratory Medicine and Clinical Immunology, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan